

卒業論文一覧（平成30年度）

—平成30年12月20日現在の卒論提出者ならびに
提出予定者—

赤木完爾研究会

有吉 丈	未定
井上 圭	国境を越えるキューバ野球（仮）
上田 隼輔	未定
梅田 咲希	イギリスの植民地支配の構造とICSにみる長期的支配の要因
遠藤 賢	デマゴギーの効力とゲッベルスの宣伝の研究（仮）
小川 修平	なぜヒトラーはホロコーストを行なったのか
木下 智生	冷戦期日本の対ソ安全保障政策の再考
串田 奈央	太平洋戦争における本土空襲
佐々木健人	プーチン・ロシアの戦略—「プーチン」というシステム—
清水 海秀	小国の外交
杉浦 郁真	太平洋戦争における人種問題
関口 尚起	安倍政権の政治的レガシー 遠のく憲法改正
高山 朋哉	人道的介入の再考—4つの事例から—
服部 弘暉	地政学からみた中国「一带一路」構想（仮）
平井フィアカ竜	未定
藤原 哲哉	マーシャルプランに対する欧米意図と結果の分析
元岡 祐	未定
山崎 真子	バルカンをめぐる諸帝国の外交と第一次世界大戦の勃発—オーストリア・ハンガリー帝国を中心に—
山田健一朗	今後の日本の安全保障（仮）

出岡直也研究会

青柳 里奈	女性雑誌の分析による各国の美意識の比較と考察—ブラジルを中心に—（仮）
原田 健	ラテンアメリカ諸国における福祉レジームに基づく比較研究

大石裕研究会

石松 諒士	応援団が着る学ランの価値（仮）
内海 奈南	未定
大澤 咲希	ネット選挙の現状と理想～2018年総裁選にみるネット選挙の闇～（仮）
沖山 美帆	未定
酒井 里奈	プロ野球における女性ファンの変遷
桜井 雅恵	中国における文化コンテンツの「海賊版」の変遷と役割（仮）
佐藤 慎也	全国高等野球選手権大会におけるヒーローとは（仮）～金足農業・吉

- 田輝星は本当に「ヒーロー」であるのか～
- 高田 玲奈 メディア・アートを用いた表象の政治性—Kawaii Trump 現象の事例を対象に—
- 高山 智也 北部訓練場の部分返還報道からみる沖縄報道の現状と課題
- 竹之内佑允 フランチャイズ化するハリウッド映画 (仮)
- 谷 桃子 スノーデン事件での極秘文書調査報道の後の日本の動き (仮)
- 反保 真優 五輪はナショナリズムを超えることができるか～リオオリンピック、パラリンピックの難民選手団に関する考察～ (仮)
- 富田 康太 現代日本における健康という病 (仮)
- 友岡 阿美 黒人差別批判史の変遷—『ちびくろ・さんぼ』絶版問題から現代まで— (仮)
- 中川 直輝 社会から「発見」された存在としてのセクシュアルマイノリティー—1999年代生まれの特異性—
- 橋本 一慶 未定
- 橋本ひかる パワハラ報道から見る日本のスポーツとメディア (仮)
- 林匠 太郎 未定
- 山本 尚生 物語パロディ的広告の非広告性～ au 三太郎 CM を題材にして～ (仮)
- 李 子季 新たなメディア規制の形～中国政府による偽言論空間の形成とその役割～

大久保健晴研究会

- 飯濱 菜帆 幕末における儒学と士道
- 今井 諒 中国経済の行く末
- 川西 麻友 対中国交正常化 日米比較
- 小泉 佑介 ナショナリズムとインターナショナリズム—世界の分断と統合—
- 後藤理基雄 ODAの現状と未来
- 鳶田 大暉 明治から平成における教育と格差
- 杉本奈沙華 近代国家と教育政策
- 関口 瑞希 今後の日本における外国人労働者の受け入れについて～東アジア諸国との比較から～
- 関戸 香帆 経済制裁の実効性
- 長井 令叡 「強い中国経済」のための習近平の経済政策
- 仲田 真理 韓国の反日ナショナリズム
- 中山 智貴 靖国神社とアーリントン基地から見る英霊祭祀
- 野村 真由 日本のエネルギー安全保障を考える
- 増田 碧 日本の皇室制とイギリスの王制
- 松村優里奈 尖閣諸島をめぐる
- 宮本 晴菜 国家と主体
- 村川 幹 EUがもたらすカタルーニャへの影響
- 森田 真実 日本史における坂本龍馬の存在意義～龍馬の功績から紐解く人物像～
- 吉田 康平 近代日本と東北地方

大山耕輔研究会

- 秋山 和泉 「特定空家等に対する行政代執行」という行政措置における政策実施に関する考察
- 大島 拓海 国民のための公営競技
- 大辻 明人 官民連携のパターンと効果
- 金澤 晃汰 ローカル・ガバナンスと行政サービス—ローカル・ガバナンスの向上によって、行政サービスが向上するのか—
- 小林 佳奈 認定こども園の普及と地域格差
- 白石 圭佑 人事行政における政官関係—内閣人事局設置による影響の検討—
- 竹居 峻治 くまモン行政学—「政策ネットワーク論」から捉える熊本県振興政策—
- 満生耀一朗 動物愛護のための繁殖・販売規制についての考察—真の殺処分ゼロを目指して—
- 水野ひとみ PFIのさらなる普及を目指して—市におけるPFI事業—
- 村井 悠紀 部活動指導員の制度化に関する政策過程の考察
- 吉田 梨紗 自治体における人口増加の要因分析

岡山裕研究会

- 鹿島 祐平 ブルース・スプリングスティーンが党派的行動に至るまで～2つの戦争が生んだ動機について～
- 近藤パドリック 北米大学における言論の自由の問題について～大学は果たして本当に「リベラル」なのか～（ミドルベリーとエヴァーグリーンの事例を見ていながら）
- 矢矧 有香 州立高等教育機関における不法移民への州民の学費適用—不法移民に教育機会を提供することで州が解決しようとした課題—

小川原正道研究会

- 井手 一貫 未定
- 大石 雅也 未定
- 小野 瑛之 未定
- 後藤 光貫 未定
- 清水 慶太 未定
- 原山 将輔 未定
- 菱田幸太郎 未定
- 松藤 大之 未定
- 南原 理沙 未定
- 森山 雄太 未定
- 渡邊茉莉花 未定

粕谷祐子研究会

- 青砥 舞 植民地の統治形態が被植民地の独立後に与える影響

- 石畑 渚 The Stability of Democracy after Personalist Authoritarianism
 岡山 卓生 発展途上国における石油と権威主義体制の関係
 加藤友輝仁 The Cause of Variation in Welfare Policy Reforms among the Central and Eastern European Countries
 黒澤 知香 権威主義体制の類型の違いは国営石油会社と政府との関係にどのような影響を及ぼすか
 櫻井 龍一 民主主義体制の定着要因～民主化第3の波以降～
 佐藤 万純 首都移転が政治体制に与える影響—ブラジルから考える—
 永嶋 萌子 権威主義体制国家におけるジェンダー・クォータ制の導入要因
 鳴釜和佳子 軍政からの民政移管の成否—ミャンマー連邦共和国に見る軍部の制度的特徴—
 蓮田 柚香 ロシア連邦における中央・地方関係と経済成長：エリツイン政権とプーチン政権の比較
 杼原 一紘 東南アジア諸国における市民運動と仏教
 三谷 勇人 軍政の政策選択要因 (仮)
 宮瀬 緑 政党制が選挙供託金制度にもたらす影響
 山下隼治郎 日本の産業新陳代謝はなぜ促されないのか～産業新陳代謝における日米比較～

烏谷昌幸研究会

- 甘利 祐希 未定
 小林 由佳 大学野球はどこへ向かうのか～伝統と改革の間で～ (仮)
 田中 瑞基 未定
 西坂 太智 ヘイトスピーチの効用と限界～ヘイトスピーチ解消法と在特会～
 樋口 華玲 未定
 松盛 力 YOUTUBERの低年齢化とその実態 (仮)
 丸山 洋太 未定
 吉田 璃央 戦争体験の風化解決に向けて～「この世界の片隅に」と「はだしのゲン」のヒット要因～ (仮)

小嶋華津子研究会

- 赤間 士朗 未定
 飯塚 寛人 日中スポーツビジネスの比較と展望
 岩瀬 智哉 地方創生のための訪日中国人観光客向けインバウンド戦略
 老野生海渡 2つの北京五輪にみる環境保全活動の変遷
 小川雄太郎 日本における舞台芸術の発展
 黒宮 一真 未定
 小宮 竜一 中国における「文化革命期のイデオロギーと西洋クラシック音楽の融合」を中心とした異文化としての音楽需要の歴史と国民性の関係性
 竹林 朗 辛亥革命が日本に与えた影響
 鳴坂 勇哉 日中米の高等教育に対する考え方

- 渡辺 朗 日中社会保険をめぐる議論とこれから
 渡辺 裕太 日本のキャッシュレス化について

小林良彰研究会

- 香川祐貴子 Female Representation and Firm Performance in Corporate Japan
 勝山 大志 未定
 佐賀 裕真 観光振興による地域経済活性化
 櫻井 真理 賃金・雇用男女格差の是正と男女共同参画社会実現を通じた労働力確保（仮）
 下川 薫・原 七海 健康寿命延伸と医療費削減の要因分析
 滝島英里子 医師偏在解消に向けて
 疋田 雄大 未定
 藤原 彩香 Democracy, HDI and Girls' Education in the Global South
 牧 裕美子 ふるさと納税の寄附先自治体の選択に関する実証研究
 明珍友紀子 女性の社会進出と出生率向上の両立

澤井敦研究会

- 今泉 翔 監視溢れる社会（仮）
 鵜戸真菜子 テレビドラマを再考する
 太田 彩恵 現代日本の少子化対策のあり方—子どもが歓迎される社会を願って—
 風間 愛瑛 日本の雇用の変化—企業の改革と若者の意識の多様化—（仮）
 糟谷 駿 私たちに「消費」される動物—不可視化する「限界問題」と盲目的な私たち—
 川崎 元照 若者にとっての郊外—均質な空間で衰退する公共性—
 草野 洵哉 消えることのない「いじめ」とどう戦うか—社会学的観点から—
 高山 哲平 「分からない」自分と、その居場所（仮）
 竹岡 建介 ブラック校則—公立高等学校における外見規定校則の論理とその意識—
 武田萌々香 地域をつなぐスポーツの可能性—Jリーグに今求められるもの—
 田代 桃子 接客サービスのマニュアル化
 中野 美蘭 映画と日本の女性たち
 野口 上恵 子ども食堂の持つ意義—子どもの貧困問題の解決策として—
 野村露良乃 ゴミ屋敷の排除の構造に迫る—潔癖症との比較から—
 平沼 絵美 「個人指向」の時代へ—消費社会論から日本人の社会的性格を再考する—
 堀 叶絵 K-POP—なぜ彼らの音楽は世界で聴かれるのか—
 堀之内 諒 音楽における社会と聴衆の変化—参加型音楽に惹きつけられる聴衆と新人アーティストの可能性—
 水野友佳理 これからの親密性のあり方—コミュニケーションの観点から—
 山神 仁 「ぼっち充」推進社会—「同調圧力」をテーマに—

塩原良和研究会

- 新井 真帆 多文化共生に向けた「居場所づくり」の可能性
今井 絢梨 音楽を通じた子供の自己実現の場の拡充
江口 瑠咲 未定
岡田 圭司 多様性とイノベーションの関係
加藤 咲月 貧困世帯の子どもの対象とした学習支援教室の意義と課題
小島 和真 移民児童に関する取り組みの日仏比較
森住 大樹 現代の都市社会における地域コミュニティのありかた

添谷芳秀研究会

- 請園真理子 岐路に立たされる対北朝鮮外交—小泉内閣との比較から—
宇野耕太郎 陸軍から見る満州事変
梶川 大介 日本の弾道ミサイル防衛政策—同盟管理政策としての考察—
加藤 杏咲 東アジアにおける2国間同盟と多国間安全保障の役割と関係性
河津 壮馬 産業部門における日本の植民地政策—台湾と朝鮮での政策の比較分析—
神田あかね 安全保障の犠牲となる沖縄問題
金 到衍 日韓関係の構造的理解—対中認識の違いを中心に—
小林 令奈 慰安婦問題におけるナショナリズムとフェミニズム—日本人慰安婦の問題から—
佐々木ダグラスジェームズ 経済制裁と日本の政策決定—捕鯨問題の特殊性—
志関 大地 南シナ海問題の顕在化による対中外交への影響
実 まどか 自由貿易に対する日本の姿勢—韓国のFTA政策との比較を通して—
渋谷安梨沙 北東アジアにおける軍事安全保障協力の可能性—六者協議の事例から—
代田 結子 終戦に向けた外交
竹内 春花 日韓教科書問題の構造について
田村 悠香 戦後日加の対米政策比較—米加関係から見る中間国外交—
筒井かれん 沖縄基地問題から考える日米同盟—崩れていった日・米・沖の「均衡点」—
仁科満菜美 日朝平壤宣言から考える日朝対話の可能性
長谷川千紘 慰安婦問題から考える日韓関係—メディアの政治への影響力—
番匠 健人 北朝鮮核・ミサイル問題とキューバ危機—両者の比較と日本の対応策—
福永 晃道 メディアが日本の外交政策過程に与える影響—湾岸危機からPKO法成立までを事例として—
水澤 優介 サイバー領域の日本外交
宮寺ひとみ 外交・国家安全保障戦略に従属する日本のODA政策—ポスト冷戦期以降を中心として—
山上 彩 カナダから見る人間の安全保障
由比 葉月 東アジア地域協力—「強靱性」と日本とASEANと親和性—

渡邊 明里 日豪安全保障パートナーシップの進展

高橋伸夫研究会

- 荒屋 凧 未定
- 鈴木 優子 横浜中華学校分裂事件に見る共産党と国民党の対立の波及
- 御器谷祐樹 1980年代中国共産党の政治思想工作における孔子の地位
- 武藤 遼 1931年の中華民国国民政府における領海12海里策定に関する決議と当時の海洋における日中関係について
- 陈 冠宇 「SNSにおける政治宣伝について」19大期間の人民日報公式アカウントを例に
- 赵 峻霄 中国都市部における居民委員会に見る住民自治の特徴と問題点

竹ノ下弘久研究会

- 江藤 圭一 地方が作り出す教育格差とその是正策
- 大芦 真央 奨学金需給が卒業後のライフコースに与える影響の検証
- 岡田 彩 幼児教育と将来
- 樋口 由佳 ワーキングプアと日本社会
- 藤村香菜子 社会階層研究から見る日本の健康格差
- 吉井英里奈 Gender Inequalities at Workplaces

田所昌幸研究会

- 佐野 愛 外交と食
- 新地 生佳 サンフランシスコ平和条約第三条と「残存主権」の成立過程
- 鈴木 優杜 日中戦争のシミュレーション
- 須山 祐介 2030年の東アジア情勢と日本が進むべき道についての研究
- 橋本 裕喜 カタール外交危機 なぜサウジアラビアはカタール包囲に失敗したのか
- 長谷川裕一 民主主義の後退はどのようにして発生するのか—フィリピンとインドネシアの比較分析—
- 藤本 朔也 現代世界における独立運動の分析

田上雅徳研究会

- 麻生 凡 中東の正当性と国家崩壊
- 田中 稔十 諸学に働きたもう神—ボナヴェントウラの法学観—

玉井清研究会

- 有馬遼太郎 福田恆存と鶴見俊輔の思想的近接性と相違点—国語国字問題と教育観を中心に—
- 五十崎史歩 大正期の不良少年少女—雑誌『変態心理』を通して—
- 黒田 毬賀 小林一三の事業観
- 新垣梨依乃 演芸慰問団による陸軍の宣伝活動

- 登坂咲代子 戦時下の「少国民」への啓蒙と普及—日本少国民文化協会の活動を通じて—
- 保泉 空 平塚らいてう初期作品に見られる神秘的表現の一考察
- 武藤 潮里 穂積真六郎と日本人の朝鮮引揚
- 村上 慶太 雑誌『盆栽』から見る雑誌統合の実態
- 森泉 伶南 太平洋戦争下の「受験」—受験情報誌『蛍雪時代』を通じて—
- 山本 真美 雑誌『婦人運動』から見る奥むめおが掲げた戦前女性像
- ヨコタ村上友 明治36年 露国陸軍大臣クロバトキン来日に対する新聞報道
- 吉武 英莉 「モダンガール」再考—雑誌『女性』を通して—
- 渡辺 悦子 軍隊の食事—雑誌『糧友』にみる戦時期の兵食—

堤林剣研究会

- 池上 まり 『アヒルと鴨のコインロッカー』研究—〈儀式〉に込められた意図とは—
- 石原由梨乃 ハリウッド映画は歴史を歪めるか—S・スピルバーグ『シンドラーマーのリスト』の考察—
- 馬林 颯 現代日本の就活事情
- 大谷 紫 今後の平和教育のあり方を考える
- 奥居 剛 政治思想と格差社会
- 菊地晋太郎 問題としてのEU
- 菊地 海帆 悪役から考える英雄論
- 齊藤 彩香 現代における「結婚」の動機の再検討—歴史的・政策的見地から—
- 齊藤 寛樹 日本のキャッシュレス化は進むのか
- 佐瀬 琴美 日本における女性のあり方
- 重田 隼也 マックス・ウェーバーの『プロ倫』から考える日本経済
- 滝 智弥 大学スポーツの意義
- 竹澤 寛 日大アメフト部問題から考える「正しい行為」とは
- 谷口 佳蓮 子どもの権利とこれからの教育
- 長沢 卓哉 高校野球に投球数制限を導入するべきか—投球数過多とメディアが生み出す「高校野球らしさ」—
- 中村 紗子 オリンピックが「平和の祭典」であるために—ナショナリズムの視点から考える—
- 畑野 秀明 日本ミュージカルにおいて、スターシステムは継承され得るのか
- 葉利 尚武 競技スポーツにおけるスポーツマンシップの展開
- 藤島 未歩 コスモポリタン・デモクラシーとその妥当性について (仮)
- 本間 彩乃 メコン河流域国における中国の狙い
- 宮澤 吟平 A Study on the Possibility of Legalizing Euthanasia in Japan
- 脇屋 拓武 体罰が横行する部活動の今後

西野純也研究会

- 風間 真哉 オバマ大統領の核政策—米ロ「リセット」失敗という評価—

- 梶原 大暉 韓国における良心的兵役拒否—兵役法に関する2018年の判決の理由考察と評価—
- 鬼原 久弥 脱対中戦略としての「インド太平洋戦略」
- 小久保磨里奈 南北のスポーツ交流—韓国民の認識とは—
- 高橋 奈央 韓国大統領の逮捕率の高さとその原因—逮捕された歴代4政権の事例分析—
- 田中 滯 慰安婦問題の国際化とそのダイナミズム—3つの「国際キャンペーン」を対象としたケーススタディー—
- 趙 心馨 韓流文化の輸出及び世界に対する影響
- 中谷 春花 慰安婦像の設置増加の背景と真の動機とは—韓国と米国のケースから探る—
- 濱田 果穂 南シナ海における米中対立—習近平政権の軍事膨張とトランプ政権の思惑—
- 藤井 葉子 国連安保理決議が対北朝鮮制裁に果たす役割と課題—国連加盟国の決議履行に着目して—
- 森田 京香 慰安婦問題合意の過程と検証報告書公開の影響
- 矢永 友恵 日韓の政治的対立は韓国人の訪日旅行に影響するのか—近年における訪日韓国人増加の要因分析—
- 渡邊 優子 出稼ぎにくる労働者、押し寄せる難民—韓国をめぐる移民の現状と韓国社会の受け止め—

萩原能久研究会

- 安部 望海 ズートピアの「ナマケモノ」を観て笑ったあなたへ—差別の悪の根拠に関する検討—
- 間 美也子 社会と美しさの関係性—美しいことは必要か—

細谷雄一研究会

- 安藤 洋陽 アメリカ人権外交と米中関係—第1期オバマ政権の対中政策を中心に—
- 石原麻紗子 シャルル・ド・ゴール大統領と大構想、1962-1964年—政治的思想、国内状況、MLF構想への挑戦—
- 乾 禄三郎 北方領土問題と日米関係—1950年代の米ソ対立の狭間で—
- 今井 穂花 核軍縮と知識人—4賢人による「核のない世界」の提言—
- 榎並 妃葉 旧ユーゴスラビアにおける民族意識とスポーツ—ドラガン・ストイコビッチ率いる、1980・1990年代のサッカーナショナルチームから見る—
- 菊池 葵 アメリカの対日占領メディア政策
- 喜田 光 政治の一翼を担った「言葉たち」—ケネディ大統領がもたらした影響力—
- 金 東玄 バブリック・ディプロマシーに関する分析—韓国の政策を中心に考察—

- 呉本 謙勝 「損なわれた対話」の回復を求めて—エドウィン・ライシャワーと1960年代前半の日米関係—
- 小祝 悠太 19世紀のタイをめぐる英仏関係—なぜタイは独立を維持できたのか—
- 神津由美子 日本の政府開発援助：1978年
- 佐藤可奈子 マルコム・フレーザー政権における対中戦略の変遷—安全保障・経済政策を中心に—
- 設楽 勇太 二・二六事件の論理とその意義—三島由紀夫を中心として—
- 清水 玲伊 イギリスにおける右翼ポピュリズムの台頭と移民問題
- 鈴木 丈治 第一次世界大戦時のオーストラリアにおける国民意識の変化と外交への影響—アイデンティティの芽生えと外交の誕生—
- 武田 祐樹 ニューレイバー政権時代におけるイギリス教育政策—PISA ランキングの継続的下落を事例として—
- 田中 大介 オリンピックをめぐる国際政治—モスクワオリンピック不参加に至る政治過程—
- 戸井田 洪 幕末期における幕府陣営、天皇政府陣営の対外姿勢
- 富田健太郎 日中戦争前夜—西安事件をめぐる—
- 中村真莉子 イギリス帝国自治領カナダと第一次世界大戦—参戦と「国民」意識—
- 成田 葵 石油に呪われた南スーダン内戦—油田発見から南スーダン内戦に至るまで—
- 芳賀 由理 米朝首脳会談を通して考える日本の安全保障問題—中国と北朝鮮の脅威に日本はどのように対抗すれば良いのか—
- 長谷川椋平 近代西ヨーロッパの王朝外交—17、8世紀の王朝外交の発展—
- 深谷 祐輔 スエズ危機とイギリス帝国意識の崩壊—イギリスの帝国政策と権力移行—
- 細野 晃平 戦後における日豪外交関係の発展—第二次世界大戦から1976年日豪友好基本条約まで—
- 堀田 主 ソ連外交とヨーロッパ、1952～1955年—ワルシャワ条約機構の形成—
- 堀口 紗希 クリントン＝ブッシュ政権におけるデモクラティック・プロモーション

宮岡勲研究会

- 川人菜優子 東ティモールにおける平和維持活動の効果に関する決定要因—紛争国側と国連側の協力関係—
- 栗田 憲 現代における難民の流入と国内紛争—現代におけるマケドニアとパングラデシュの事例—

山本信人研究会

- 塩田あすみ 公立小学校における能動的学修の導入について
- 松山 陽花 Disney Princesses and the American Society